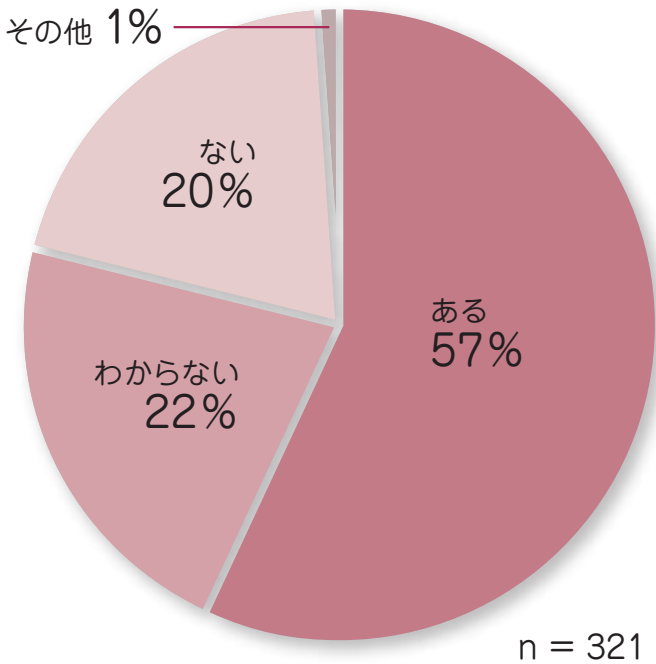
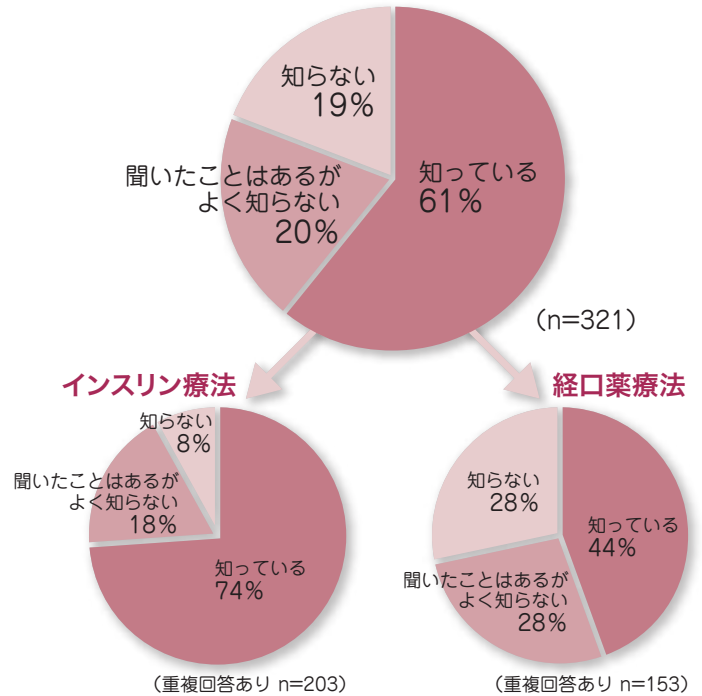


Q. あなたは「シックデイ」を経験したことはありますか？



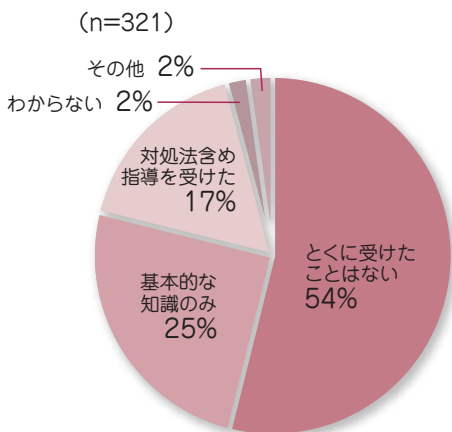
Q. 「シックデイ」とは何かをご存知ですか？



全体では、57%が「経験あり」とのことでしたが、インスリン療法の方は67%、経口薬療法の方は40%と治療法によって異なる状況でした。ただし、シックデイとは何か知っているかを訊ねてみたところ、全体では4割が「知らない」とし、インスリン療法の方でも26%、経口薬療法の方では56%が「知らない」とのことです。具体的にどのようなことなのか、意外に認知されていない現状が浮かび上がりました。

シックデイについての指導については、

Q. 医療機関で指導・説明を受けたことはありますか？



全体では半数強、インスリン療法の方は43%、経口薬療法の方では66%が「とくに指導を受けていない」とのことからも、その認知や対策が十分でない状況がうかがえます。

どのような時にシックデイを経験したかでは、「風邪・インフルエンザ」が約9割と最も多く、とくに流行している時期には注意が必要のようです。

自由記述では、「こんなことくらいで病院へ電話して良いものかどうか悩む」、「インスリンの調整については家庭では自分以外分からないので、具合が大変悪い時には自分

だけが頼りというのが困る」、「風邪などの時は近所の診療所へ行くが、シックデイのことを知っているのかどうか不安」、「シックデイという言葉自体初めて聞いた」など、多数の声が寄せられました。

Q. どのような時に「シックデイ」を経験しましたか？

(複数回答可 n=183)

- 風邪・インフルエンザ..... 87%
- 下痢..... 42%
- 抜歯..... 13%
- 手術..... 12%
- ケガ・骨折..... 10%
- 二日酔い..... 9%
- わからない..... 4%
- その他..... 11%

●コメンテーター●

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

今回のアンケートでは、GLP-1受容体作動薬の継続使用時のシックデイについては触れませんでした。臨床現場では、すでに本格的なインクレチン時代に入っています。そして尿糖排泄促進剤(SGLT2阻害薬)の導入も間近です。このような状況下でシックデイの話題が、インスリン療法患者中心では片手落ちと言えましょう。今後はインクレチンやメトホルミンの大量投与時なども含め、より具体的な事案に基づいたシックデイ教育がなされていくべきと考えます。これについては、拙著「インクレチン関連薬の臨床」(メディカルトリビューン刊)をご参照下さい。